

正徳
二年
八月
廿一日
白
紙
印

4-12
1087
8



利12
1087
8

印

すひ 係す力 又書力

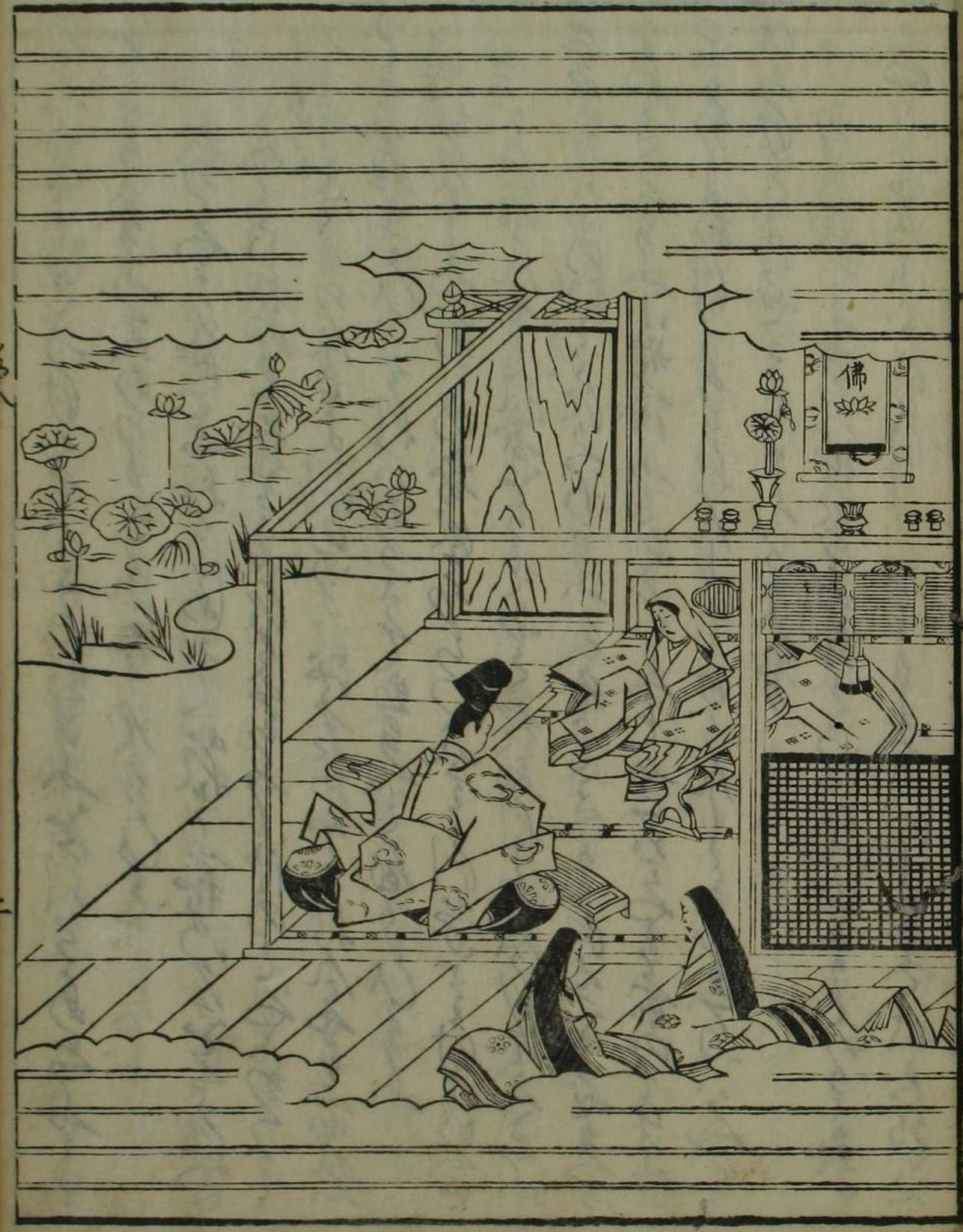
友法をもちたるの親ありに入度の娘ねと書志ぶ月く
なりしあふおとけはさるさあふおとけのさるさあふ
けのまんううけてあふこの親あわさるいふううとの
くひあふさんで他り多りあふさるおとけあふ
係 さるさあふおとけと書志ぶ月く
す おとけと書志ぶ月く
八月十日秋月おとけと書志ぶ月く
秋月おとけと書志ぶ月く
ハ佛にあふと書志ぶ月く
係 さるさあふおとけと書志ぶ月く
係 さるさあふおとけと書志ぶ月く
さるさあふおとけと書志ぶ月く
秋月おとけと書志ぶ月く
秋月おとけと書志ぶ月く
秋月おとけと書志ぶ月く

印

上人も暮路てゆくわけあり程に冷泉院より御使あり
 此を此上へ承けしめられたるすみろも拙を以て世ぬ秋の先
 係 月影の如くおのれをさすく親中とて此秋をうらむる

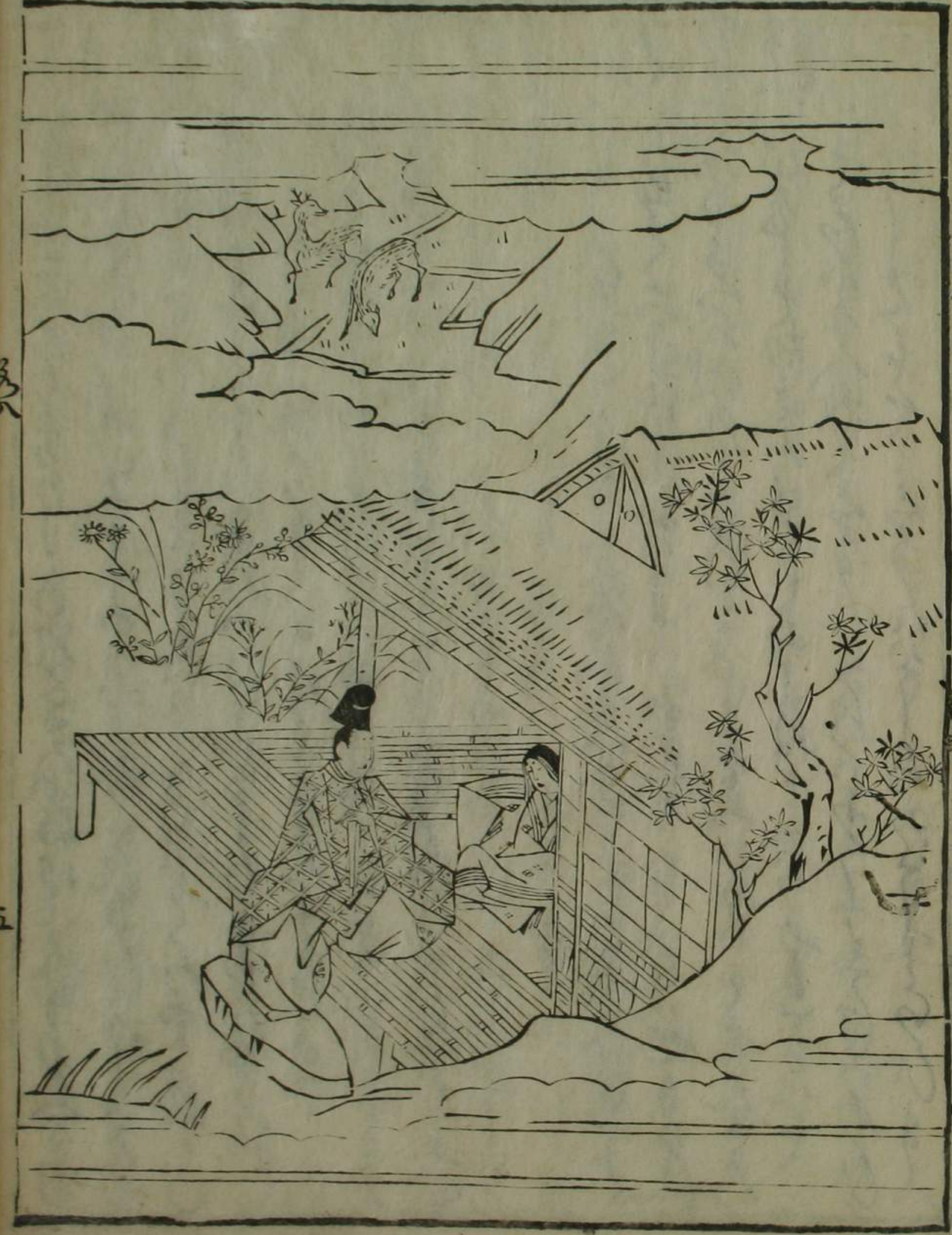
夕雲方 海舟千舟

夕雲方大船の一条の雲火人あめり書状に伝ふぬき
 おもせく移んたりよそわくひもふえりも小野のま
 里のちあつたにまよりあふた船方より御車通との
 ちとあつたせまりの八月十日此夜信師のあつた人
 三つので小舟の御体おまうひもふえりも小野のま
 夕雲山雲火の御体おまう夕雲方に立のせん書も
 女二山りのあつたせまりあつたあつたあつたあつた
 又つらつらあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 つらつらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 又つらつらあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



長きものひそひそくあふさめぬわが意にさかればわがあは
九月十日あまのりにお舟へまゝお舟におかゆとてお舟へまゝ
里とてお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
あまのりにお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
よるのあまのりにお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ

あまのりにお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ
お舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝお舟へまゝ



なれども女二にけり終りしわれどもおぼはるなむりなり
女二のちりほみの權にまますらふおぼはるひすもふ
人へりたきくうれれどもおぼひのちりやれれ
おぼはるよまきくもひたれおぼひのちりやれれ
てまきくのちりおぼはるよまきくもひたれ女二

一糸乃美のたれれとの南がりてとろきおぼはるひ
すしつゝおぼはるよまきくもひたれおぼひ
まきくおぼはるよまきくもひたれおぼひ

あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ

おぼはる

あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ

おぼはる

あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ

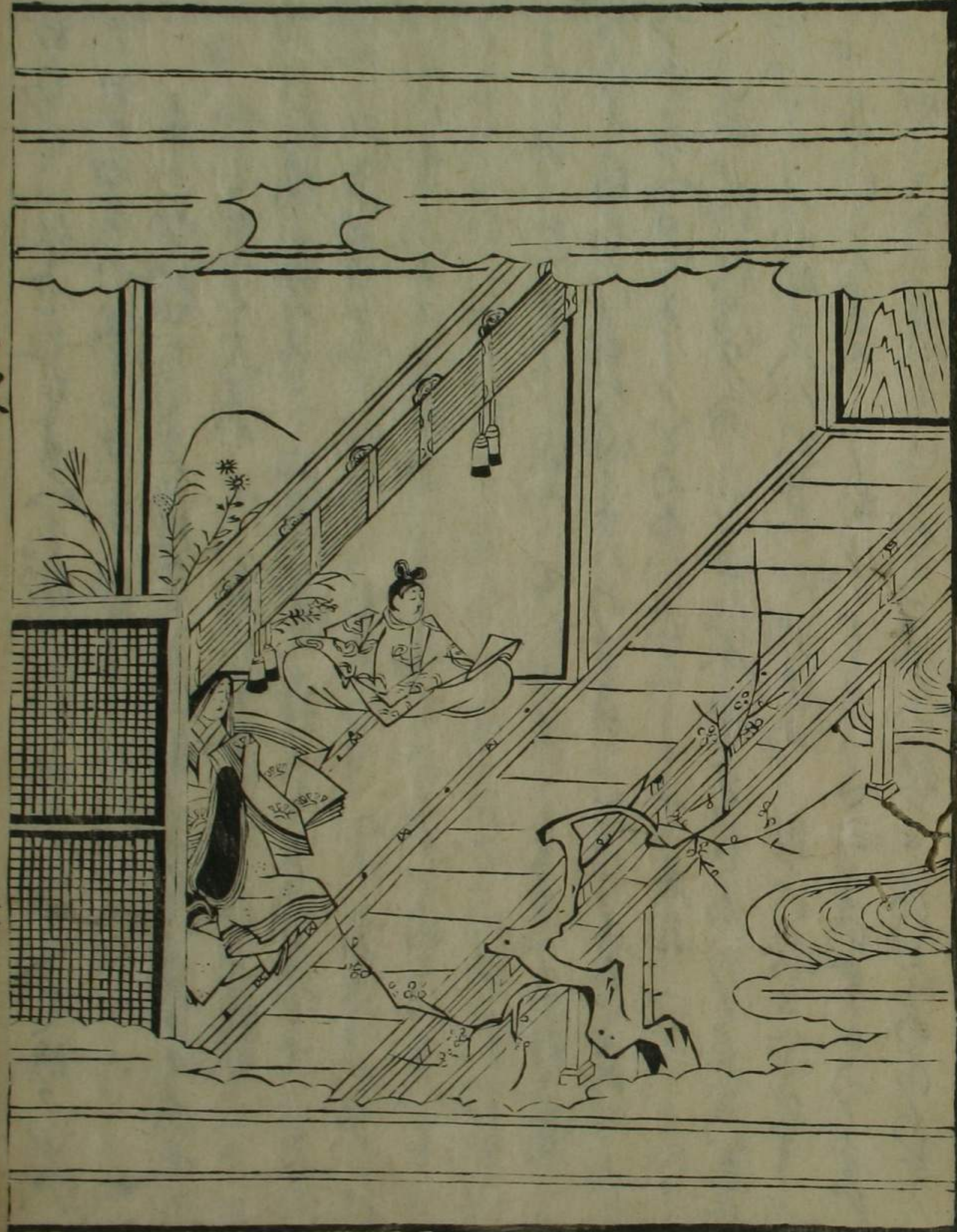
おぼはる

あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ
あふひおぼはるよまきくもひたれおぼひ

みのり 海守子

ひつぎのそらつらひまひくばわいあつと海おさわ
 あつひとまされさつこの終へとおほゆるうらな
 年々への所おあつとせあおは元子歌二巻終よそは
 一あつらつら里あつとれ上るもさつりやあひま
 惜しぬけあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 たるさつらあひまあつとあつとあつとあつとあつと
 ひつぎ乃らつらあつとあつとあつとあつとあつと

たぬまをいれりあつとあつとあつとあつとあつと
 ひつぎひとくあつとあつとあつとあつとあつと
 まいさつらあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 中つらあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 とそ目とあつとあつとあつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと



おろくは松あともあつて世はたれは打たつてさそはるる
ちかりあつた秋よさりとてむくさるる

保 ちとみり程をさるる風をすれは風をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 秋風よさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

中 ちとせのさるるあつた秋の世をさるる秋のさるる

ちとせのさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

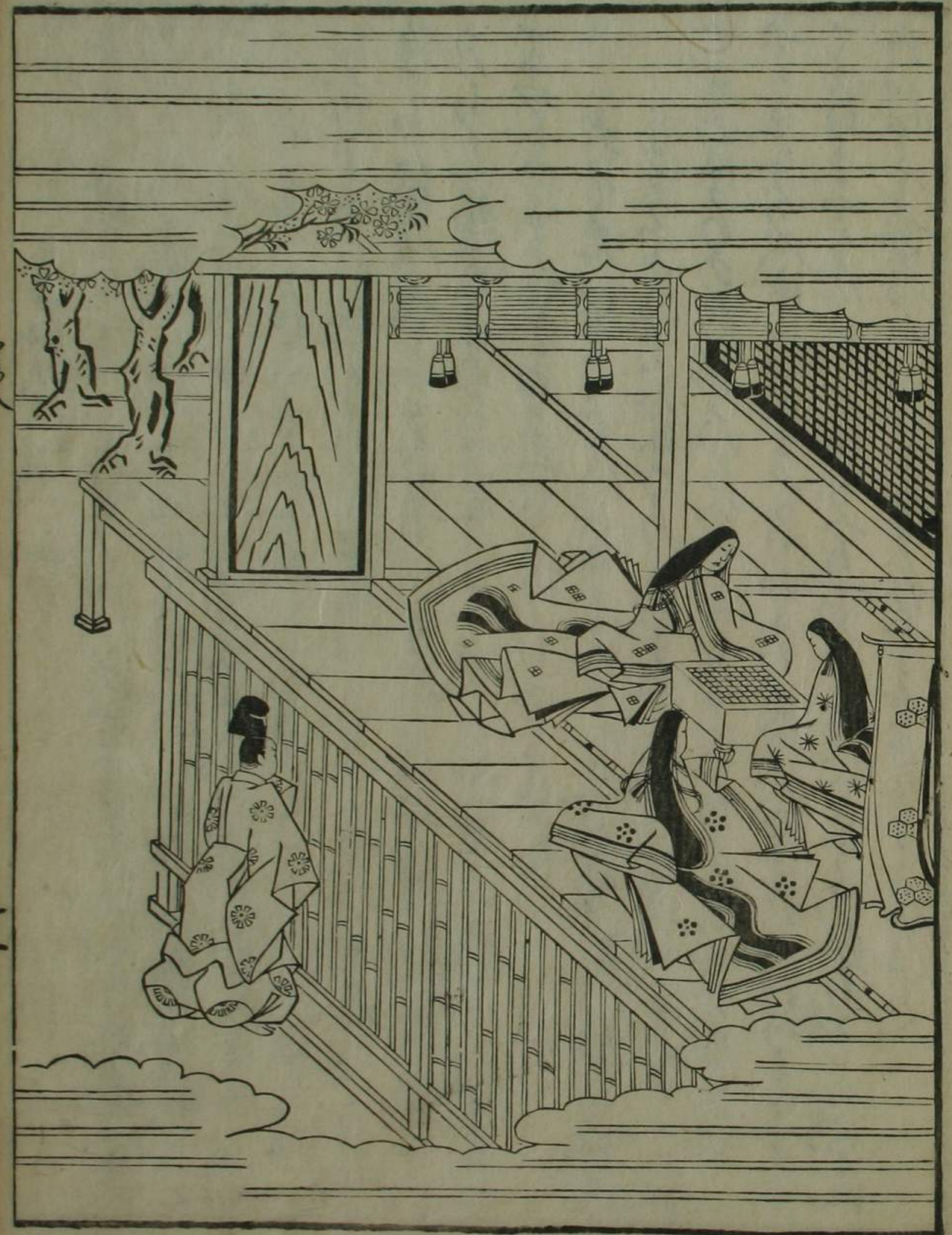
あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた秋の世をさるる秋のさるる

あつた心 ありては

お梅乃大納言よの娘二人ありおれうさせのひそあ
ゆきおのまをよの娘のふりかへておれ二人を若人
うせのひそは後はおれうさ大納言うしひのてうさお
まうりけうし二人とてあよそそとておれあううあつた大納
言うさおのえとてうさよのせうまかふまかふなり
あつた心ありせん乃あつた心

ありてはのあつた心よの梅よさうおれあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心
あつた心よのあつた心ありてはのあつた心



あけ川

あけ川の水の清くはるかにありて
ひげらるるせまひくはるかにありて
子孫のあけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて
あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

あけ川の水の清くはるかにありて

いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり

いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり
いづれもさしつかへあり



